

海外安全対策情報平成28年度第1四半期（4～6月）

1 社会・治安情勢

- (1) 治安の悪化が大きな社会問題となる中、引き続き、現政権は軍と警察の連携を図り、治安の低下が顕著なグアテマラ県を中心に治安回復作戦を進めており、全国の警察官の数を増員しているものの、治安回復上の打開策とはなり得ず、また、犯罪組織同士の抗争も絶えない。
- (2) 対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 国家文民警察の発表によると、今年度第1四半期の当国における総犯罪発生件数は7,630件と前年度第1四半期の8,059件と比較して微減している。また、殺人件数は1,168件で前年度第1四半期の1,222件と比較して微減している。外国人の強盗被害は10件で前年度第1四半期の4件から倍増しており、また、バス強盗は8件で前年度第1四半期の16件から半減しているが、バスの運転手や車掌に対する恐喝事件が頻発しており、依然として治安回復の兆しは見られない。なお、犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	1,168件（前年比	4.4%減）
傷害	1,443件（	1.0%減）
強盗・窃盗	3,444件（	6.8%減）
強姦	134件（	29.1%減）
誘拐	11件（	57.1%増）
行方不明	939件（	6.2%減）
家庭内暴力	491件（	1.0%増）

(2) 銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、第1四半期で治安当局が取り扱った殺人事件1,222件のうち、銃器を使用した事件は908件（全体の77.7%）、同じく傷害事件1,443件のうち銃器を使用した事件は775件（53.7%）に達する。これら犯罪における銃の使用率は微減しているものの大きくは変化が無く、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

4月8日午後1時頃、アンティグア発チマルテナンゴ行きのバスの車内で寝ていたところ、胸元に抱えていた鍵付きの鞆が切り開かれ、現金、パスポー

ト、カメラその他を盗まれた。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 4月7日、グアテマラ市第18区及びアンペドロ・アヤンブック市において、マラ18の犯行と見られるバラバラ殺人の遺体が詰められた18の袋が発見された。

イ 4月23日、19～20歳くらいと見られる身元不明男性2名の射殺体がグアテマラ市第9区で発見された。

ウ 5月2日、バス等の運転手及び車掌に対する恐喝で犯行グループの72人が逮捕された。

エ 5月21日、当館直近の路上において、バイクに乗った犯人が、歩いていた若者を銃で襲撃し、5名が負傷する事件が発生した。

オ 6月1日、グアテマラ市第10区において、ホテル客室内で就寝中の男性が何者かに暗殺される事件が発生した。

カ 6月4日、グアテマラ市第14区において、3歳の女兒が拳銃で撃たれ負傷する事件が発生した。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民や外国人がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキ、衝突等は発生していないが、引き続き各種運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。（了）